

前橋市 水道事業・下水道事業

# 平成30年度決算の概要

## 目 次

- ・水道事業の平成30年度決算の概要 …… 1～2
- ・下水道事業の平成30年度決算の概要 …… 3～4
- ・水道料金、下水道使用料などの推移 …… 5

前橋市 水道局 経営企画課

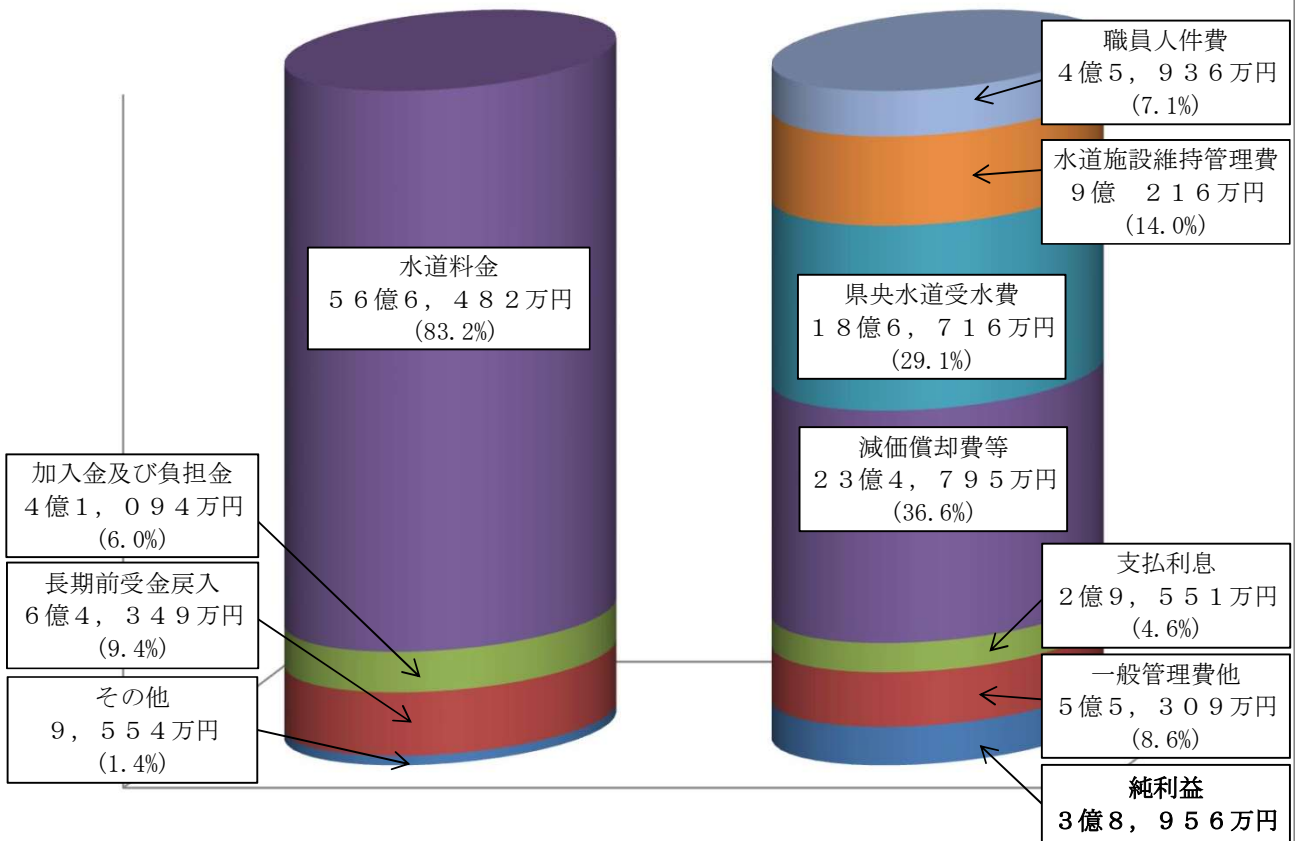
# 平成30年度 水道事業会計決算の概要

## 税込み

### 【収益的収支】・経常的な収支の状況

収入合計 68億1,479万円

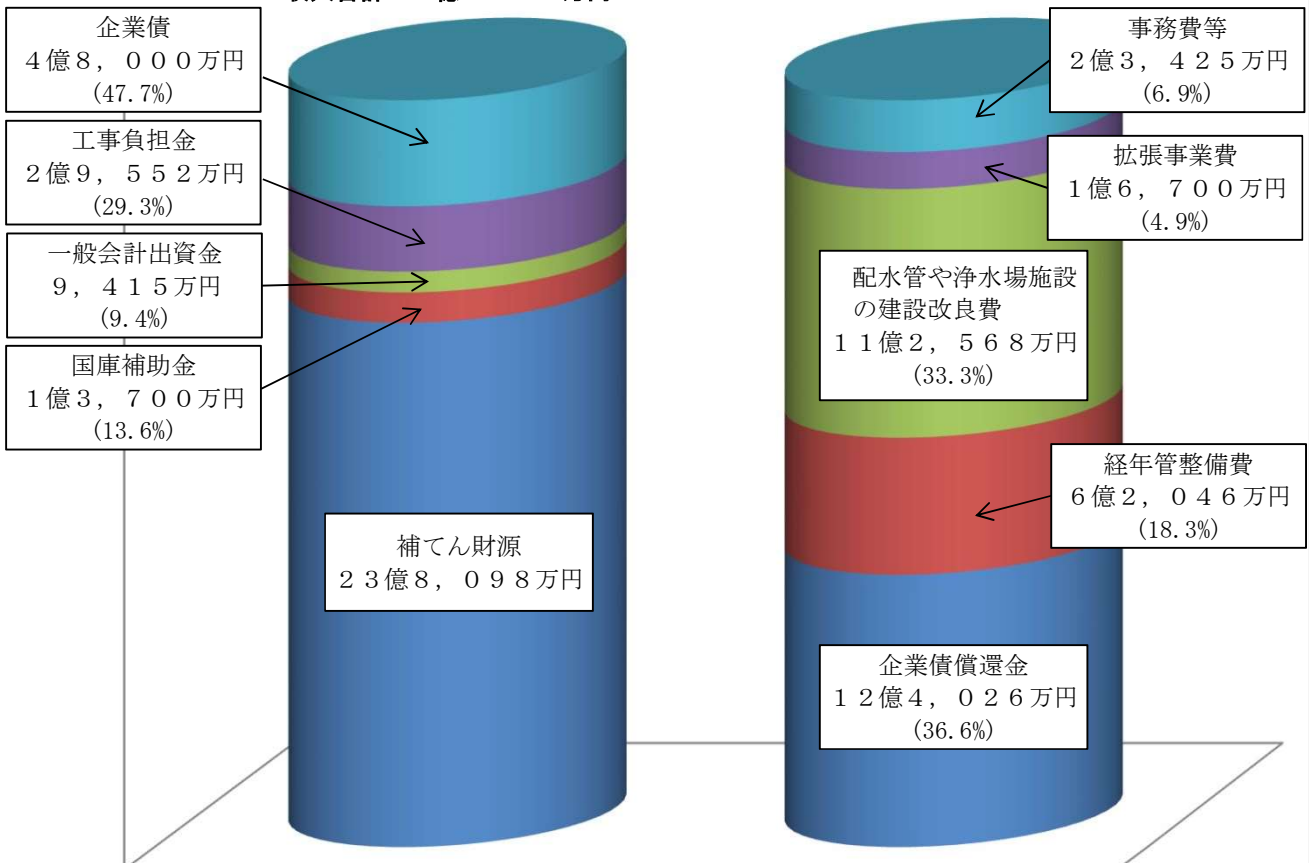
支出合計 64億2,523万円



### 【資本的収支】・投資的な収支の状況

収入合計 10億667万円

支出合計 33億8,765万円



# 水道事業会計の主な事業(平成30年度決算)

## 第7次拡張事業(1億6,700万円)

水道事業経営認可に基づく水源の確保、配水池の建設、配水管整備の基本をなす事業となります。現在は、令和2年度を目標として、平成20年度から第7次拡張事業を実施しており、合併地区を含めた施設管理の一元化を図るため、遠方監視設備の更新や合併地区の給水拠点としての浄水場配水池築造工事などを行っています。

平成30年度では、出水不良の解消を目的とした配水管布設工事や高水圧対策のための減圧弁設置工事など、配水管等の整備、拡充を行いました。

## 県央水道受水費(18億6,716万円)

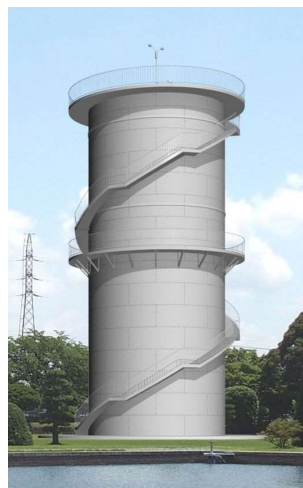
配水の割合	自己水(地下水)	43.9%	県央第一水道	39.6%(単価:50円/m <sup>3</sup> (税抜))
	県央水(表流水)	56.1%	県央第二水道	16.5%(単価:102円/m <sup>3</sup> (税抜))

## 敷島浄水場配水塔築造工事(1,899万円)

平成29年度から敷島浄水場新配水塔の詳細設計業務に着手し、敷島浄水場全体の更新について検討を進めました。新配水塔は平成29・30年度の2か年で詳細設計を実施し、令和元・2年度で建設予定です。同時に現在の水道タンクの保存のあり方などについても検討を進めております。



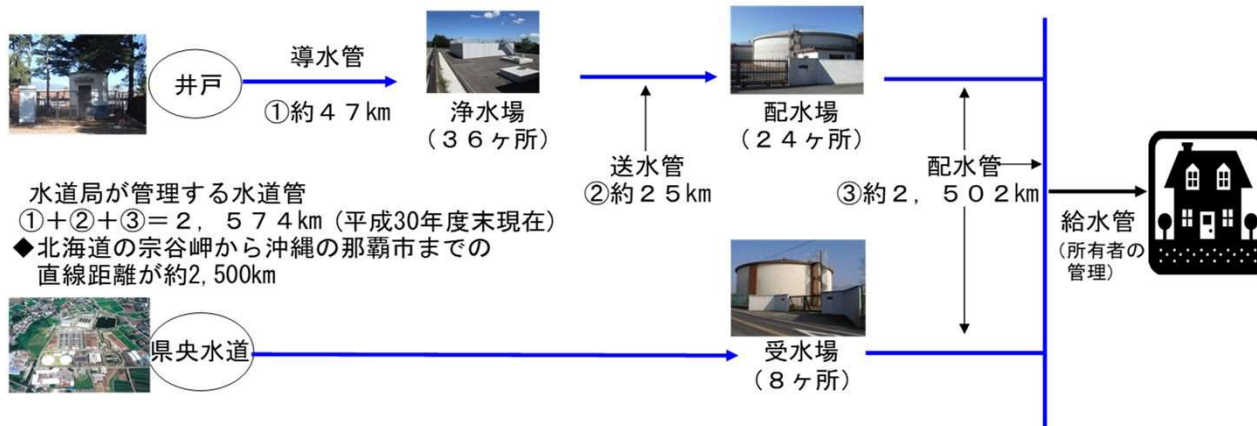
左)昭和4年から稼働している水道タンク



右)新水道タンク(イメージ図)機能性を重視したデザイン

## 配水管等改良事業(9億2,163万円) 浄水場施設等改良工事(1億6,755万円)

老朽配水管の布設替工事、都市計画事業や下水道事業など他の事業に関連した配水管の布設替工事、市民の方々からの要望による配水管の新設や水圧増強工事などを実施しました。また、各浄水場の計装設備改修工事などをはじめとした浄水場施設等改良工事を実施しました。



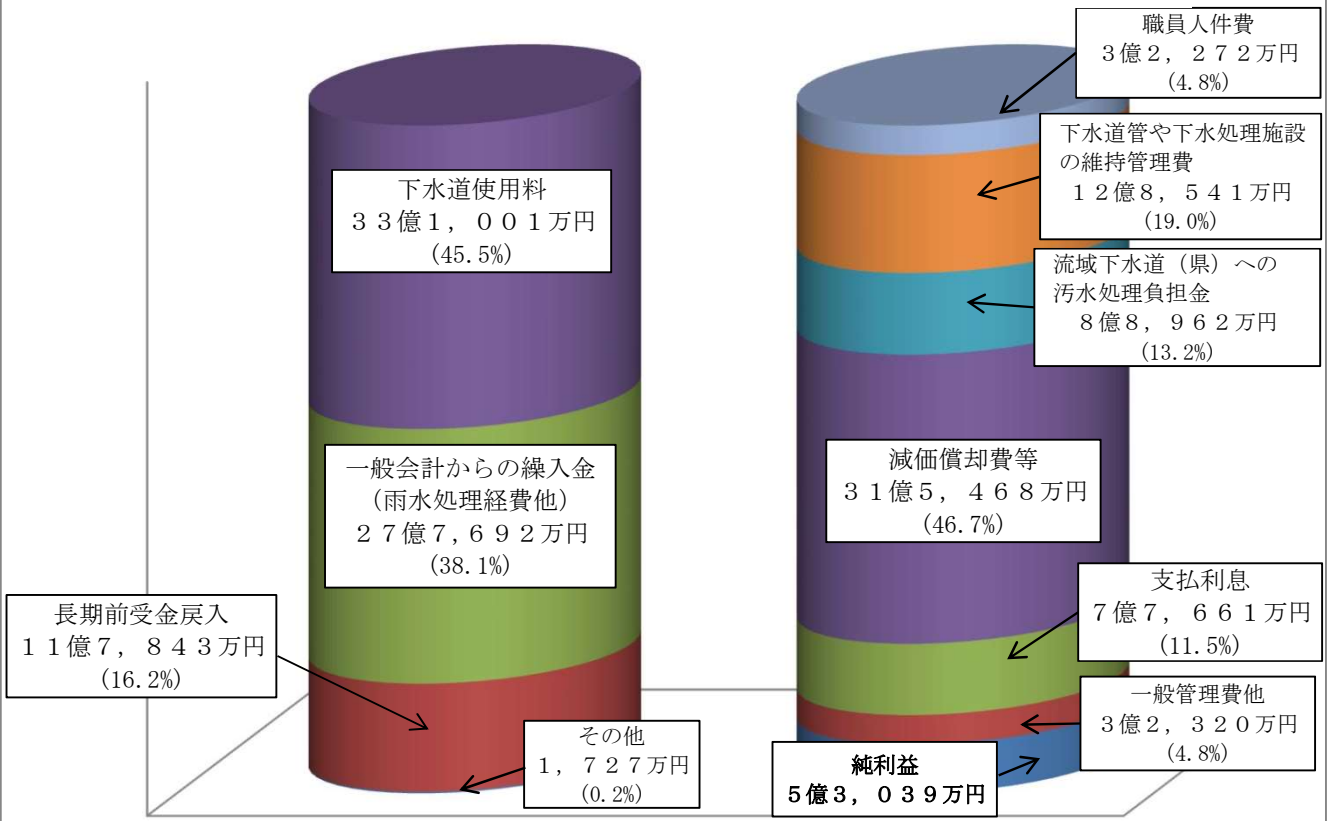
平成30年度 下水道事業会計決算の概要

税込み

【収益的収支】・・経常的な収支の状況

収入合計 72億8,263万円

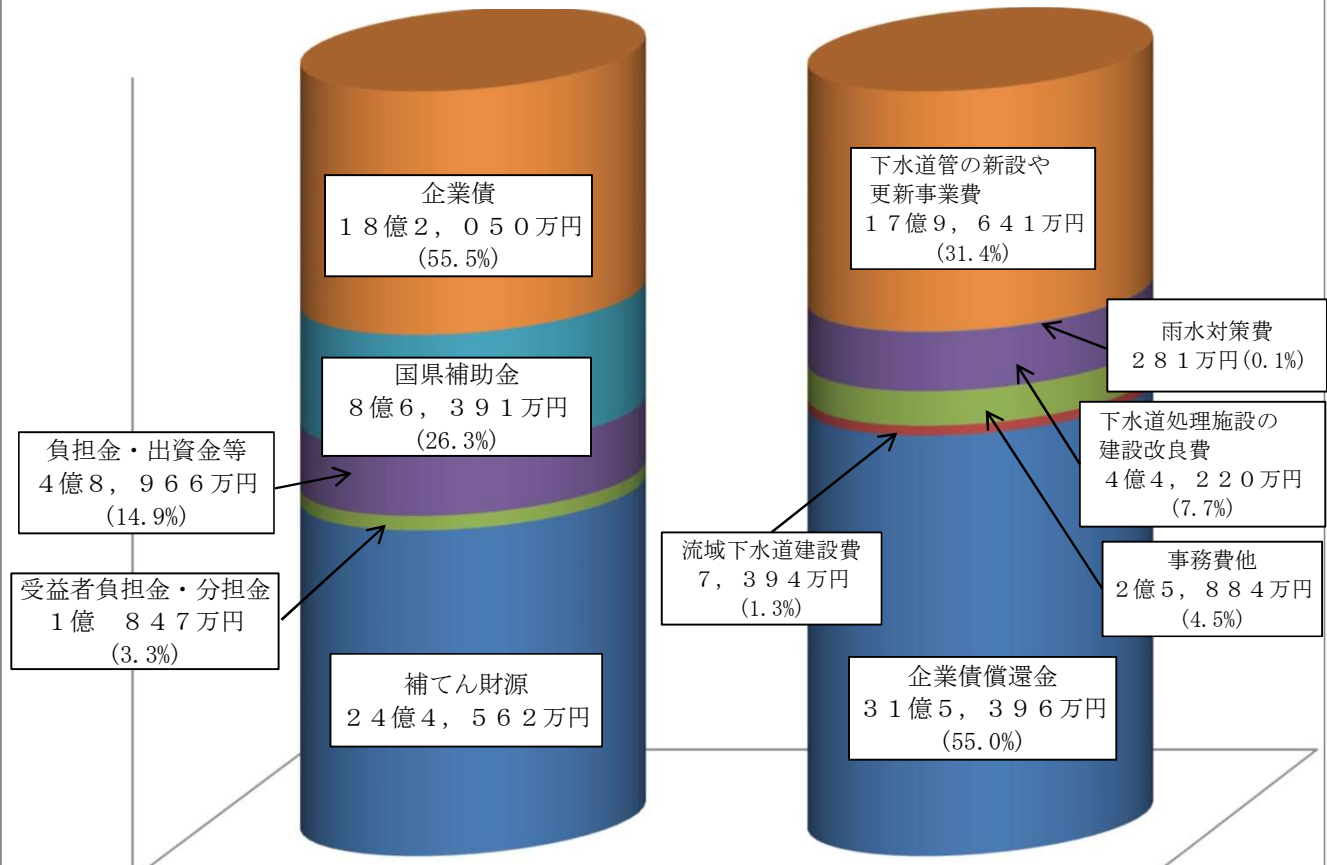
支出合計 67億5,224万円



【資本的収支】・・投資的な収支の状況

収入合計 32億8,254万円

支出合計 57億2,816万円



# 下水道事業会計の主な事業(平成30年度決算)

## 処理場・ポンプ場施設の維持管理(9億9,307万円)

水質浄化センター(六供町)は、昭和38年に運転を開始し、現在、処理面積1,171.6ha、処理能力は、84,200m<sup>3</sup>/日となっています。

また、赤城山大洞処理場は、大沼周辺の47haが処理面積で、昭和63年に運転を開始し処理能力は、1,000m<sup>3</sup>/日となっています。

なお、中継ポンプ場は市内に10ヶ所設置されており、汚水等を処理場に円滑に流下させるために重要な役割を担っています。

## 管渠新設事業(12億4,875万円)

流域関連公共下水道事業計画を中心に、10,664.9mの汚水管渠を整備しました。

この結果、平成30年度末における下水道整備区域は、前年度に比べ44.3ha増え、6,230.2ha(整備率90.3%)となりました。

### ◆下水道処理人口普及率

平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末
70.2%	70.5%	70.9%	71.2%

平成30年度末現在	前橋市	群馬県	全国平均
下水道処理人口普及率	71.2%	54.2%	79.3%
汚水処理人口普及率※	92.9%	81.3%	91.4%

※汚水処理人口普及率：公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽、地域し尿を含めた普及率

## 処理場建設事業(3億6,374万円)

水質浄化センター内の設備機器を順次更新するとともに、次年度以降に更新予定の設備機器に係る実施設計を行いました。

- ・汚泥脱水設備更新工事、2系水処理散気装置更新工事
- ・3系水処理汚水ポンプ設備更新実施設計

## 下水道長寿命化事業(4億9,586万円)

下水道施設の長寿命化計画(計画期間:平成27年度～30年度)に基づき、老朽管の改築・更新事業を実施しました。

また、下水道施設全体を一体にとらえた下水道ストックマネジメント計画の策定に着手しました。

## 下水道総合地震対策事業(2,764万円)

地震時における流下機能及び緊急輸送路の確保を図るため、緊急度、重要度の高い輸送路に埋設されている下水道管の耐震化を図りました。

- ・国道17号線、国道50号線の埋設管の地震対策工事

## ポンプ場建設事業(7,846万円)

南部汚水中継ポンプ場非常用発電機更新工事を実施するとともに、昨年度に引き続き天川ポンプ場圧送管地震対策として第二期工事に取りかかりました。



【天川ポンプ場圧送管地震対策第二期工事位置図】



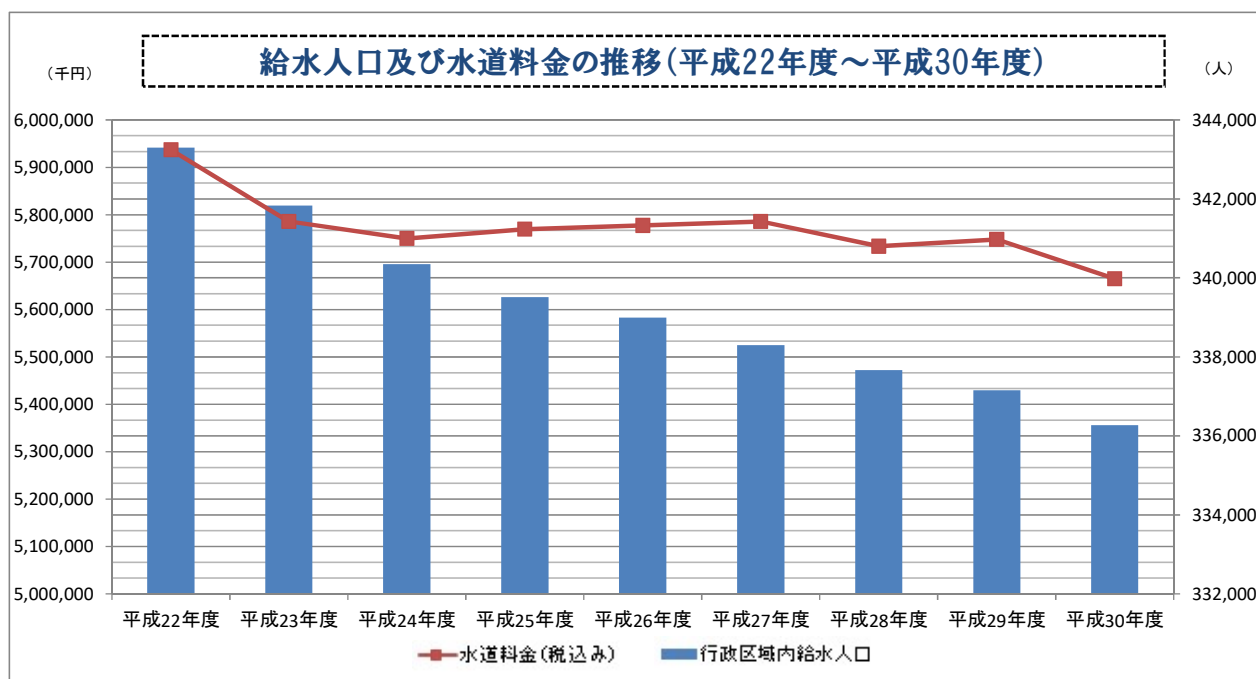


# 水道料金、下水道使用料や人口などの実績の推移

## 水道料金（56億6,482万円）

水道事業収入の大半を占める水道料金については、前年度に比べ約8,320万円の減少となり、56億6,482万円の収入となりました。

節水機器の普及や水需要の減少、配管や施設の老朽化対策工事などを勘案すると、令和4年度からの料金改定は避けられない状況と見込んでいます。



## 下水道使用料（33億1,001万円）

下水道使用料については、前年度に比べ約451万円の減少となり、33億1,001万円の収入となりました。

処理区域内人口は増加しているものの、節水機器の普及等による水道使用量の減少等により下水道使用料も減少傾向が見込まれています。安定的な経営のためには、さらなる経費節減や計画的な更新に努めるほか、将来の下水道使用料の改定を視野に入れておく必要があります。

